

福知山市住民自治検討会議（第10回）概要報告

〔日 時〕平成30年10月9日（火）15:00～17:00

〔場 所〕福知山市消防防災センター

〔出席者〕委員…12人、事務局…8人、傍聴者…4人

■開会

■意見交換（自治会・公民館と地域づくり組織との関係性の整理）

【まとめ】

『公民館のこれまでの機能（人材育成、社会教育）に加えて、新たに地域づくり（コミュニティセンター）の役割をもたせることで、地域組織を公民館がまとめていく』

① 自治会長負担の確認について

- ・ 充て職が多い。これを減少させることが負担軽減のために必要。
- ・ 現状からも、自治会の役割を棚卸しすることで、自治会を円滑にする機能がある。
- ・ 自治会長の充て職が多いという話であるが、運営委員の代表者等は忙しいが、他の方はそんなに忙しいか不明である。
- ・ 仕事を引退された方にとっては、そんなに大きな負担とは思わない。
- ・ 敬老会や地域のイベント、総会等に従事しなければならないが、それを地域内で分配すればよいと思う。
- ・ 「自治会長は多忙」というのは、考え方を変えなければならないのかもしれない。
- ・ 行政から依頼される配布物や回覧などは、新しい組織の立ち上げにより、減るのかを検討が必要。
- ・ 自治会長が1年で交代してしまい積み上げていくことができないということも、なり手がいなかったり、大変だったりする要因だと思う。
- ・ 地域づくり組織は、自治会長が複数年継続して携わってもらえるようにサポートできる組織であるとよい。
- ・ 今の業務はどこが引き受けるのか考えなければならない。まず、どのような組織の役割になるかを考えてから、振り分ける（棚卸しする）のがよいと思う。

② 公民館の役割等について

- ・ 公民館に役割をまとめるとなると地域公民館に人手がたくさん必要になることも考えられる。
- ・ 今は、地域協議会と地域公民館が併せて活動を行っている。地域公民館がまちづくりセンター（コミュニティセンター）として機能するのがよいのではないか？
- ・ 地域公民館がまちづくりセンターとして、（人材育成を含めて）今の業務を広げていくイメージ。

- どれだけ人材を配置できるのかはやはり鍵になる。
- 小学校区単位で地域づくり組織がスタートするイメージのほうが強いので、その点を整理しなければならない。
- 各校区で組織ができた場合、地域公民館がまとめる役割を想定できる。将来的なことを考えると、二重組織にすることは無駄である。
- 公民館の扱いを地域に任せるのではなく、市の中では統一しておくべき。
- 小学校単位の活動がそれぞれ乗り出したら、公民館も動かなければならないと思う。
- 地域公民館が地域と連携していくことは可能であるはず。
- これまでの社会教育の活動とともに、地域協議会の役割を公民館が担っていく場合には、やはり何をするのか明確にしておかなければならない。いきなり、やってくれでは、当然できない。
- 誰か目配りをできる存在が必要。
- 朝来市は、まちづくりセンター（小学校区）と地域まちづくりセンター（中学校区）をつくっている。まちづくりセンターは、各地区のシンクタンクとして生涯学習機能をつかさどる。地域まちづくりセンターは各地域の個性を活かした活動や課題解決の手助けをする。そこにはやはりセンター長が必要。
- 地域づくり組織はピラミッド型の組織が理想的。
- 小学校区ベースの地域協議会ができるのがよい。
- 次の段階として集約する中学校単位の包括的（集約的）な組織ができるのがよいということ。
- 地域づくり組織の関係性の整理の中で言うと、各地域（小学校区で）で協議会をつくる。さらに、コーディネートする、まとめ役があるということ。
- 住民の自治組織、自治活動というのは、本来の公民館法や社会教育法にのっとった活動であると思う。住民あつての制度であるので、いかに法律に適用させるかを考えるのは二の次でよいと思う。法律に抵触することもないはず。
- 公民館の活動を残しつつ、包括的なコミュニティセンターとしての機能へ転換できないか考える。

③ その他（組織の活動費について）

- 最終的には、包括型補助金（使用用途は地域に一任）の考え方が必要だと思われる。
- 各地域に補助金を任せなければ、地域活動はしにくい。
- 資金の使い方は今後の議論になってくる。